

## 1. 単元名

自然愛護、生命の尊さD 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること (D-19、D-20)

## 2. 単元のねらい

- ・観光客の身勝手な餌やりが原因で駆除されてしまったヒグマのエピソードを通して、人と自然がよりよい関係を築くためにはどんな考えが必要かについて考えさせ、人間と自然とのよりよい関わり方を求め、自然を尊重しようとする判断力を育てる
  - ・身近な生活と環境問題とのつながりに気づき、環境を守ることの意義を理解する。
  - ・自分の行動や選択が、地域や地球環境、将来世代に影響を与えることを多面的・多角的に考える。
  - ・持続可能な社会の実現に向けて、自分にできる行動を主体的に考え、実践しようとする態度を育てる。
- (内容項目) - D: 自然や崇高なものとの関わり - C: 集団や社会との関わり

## 3. 教材名 「『ソーセージ』の悲しい最後」

## 4. 単元について

### (1)教材観

本教材「ソーセージの悲しい最後」は、何気ない行動の積み重ねが大きな結果を招くことを描いた物語である。深く考えずにとられた一人一人の行動が、資源の無駄や望ましくない結末につながっていく様子は、持続可能な社会における私たちの行動の在り方を考える契機となる。本教材を通して、生徒が自分の日常の行動を振り返り、小さな選択が他者や社会、環境に影響を与えることに気づき、よりよい行動を主体的に考えようとする態度を育てる。

### (2)生徒観

第1学年の生徒は、自分の行動が身近な人間関係に影響を与えることについては理解し始めている一方で、その行動が社会全体や将来世代にまで影響を及ぼすという視点をもつことは難しい発達段階にある。そのため、「自分一人くらいなら大丈夫」「少しのことでは変わらない」と考えがちであるが、本単元では日常生活の具体的な行動を通して、小さな選択の積み重ねが大きな結果につながることに気付かせ、生徒の視野を「個人」から「社会・未来」へと広げることが重要である。

### (3)指導観

本時では生徒が物語の出来事を自分の生活と結び付けて捉えられるよう、登場人物の行動一つ一つに着目させ、その行動がどのような結果につながったのかを考えさせる。話合いを通して、「自分一人くらいなら」という意識が集団や社会、環境に及ぼす影響に気付かせ、何気ない行動にも責任が伴うことを理解させたい。また、日常生活の中で自分にできる持続可能な行動について考え、実践しようとする態度の育成を図る。

第2次の指導にあたっては、環境に配慮した行動を一方向的に善とするのではなく、生徒が便利さと環境への影響との間で葛藤しながら考える過程を大切にする。生徒一人一人の小さな行動が、他者の行動と重なり合うことで社会全体の大きな流れをつくり出していることに気付かせるため、個人思考と交流活動を効果的に組み合わせる。その中で、「完璧な行動を求める」のではなく、「考え続け、よりよい選択をしようとする姿勢」こそが持続可能な社会の実現につながることを実感させたい。

#### (4)ESD との関連

##### ・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性・・・本学習では、日常の何気ない行動や選択が、他者や社会、環境にどのような影響を与えるのかを多面的・関連的に捉えるという視点を働かせる。現在の行動が将来に及ぼす影響にも目を向け、よりよい行動選択とは何かを主体的に判断しようとする考え方を育てる。

相互性・・・一人一人の小さな行動が集まることで大きな結果を生むという「つながり」の見方を通して、自分の行動が持続可能な社会の形成に関わっていることを考えさせる。

##### ・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力（クリティカル・シンキング）

身近な行動を社会的課題と結び付けて考える力、複数の視点から判断する力、自分の選択を見直し行動につなげる意思決定力

##### ・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

本学習を通して、現在の自分たちの何気ない行動や選択が、将来の世代の生活や環境に影響を与えることに気付かせる。目先の便利さや利益だけで判断するのではなく、次の世代にとっても望ましい社会の在り方を考え、責任ある行動を選択しようとする価値観への変容を促す。

自然環境、生態系の保全を重視する（生物多様性の重視）

ソーセージをめぐる出来事を通して、命や資源が無駄に扱われることの問題に気付かせ、人間の行動が自然環境や生態系に影響を及ぼすことを理解させる。人間中心の考え方を見直し、他の生物の命や生態系のつながりを尊重しようとする価値観を育てる。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

一時的な満足や便利さの追求が、結果として誰かの不幸や悲しい結末につながることに目を向けさせる。自分だけの幸福ではなく、他者や社会、自然と共にある持続的な幸福とは何かを考え、周囲と調和した生き方を大切にしようとする価値観への変容を促す。

##### ・ 達成が期待される SDGs

12「生産と消費」

13「気候変動」

5. 単元の指導計画（全2時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価の視点
1	<p>「『ソーセージ』の悲しい最後」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野生の動物に関する自分の経験を振り返る。</li> <li>・「『ソーセージ』の悲しい最後」を読んで考える。</li> <li>・ヒグマの「ソーセージ」は誰に殺されてしまったのでしょうか？</li> </ul> <p>&lt;中心発問&gt; 「ソーセージ」のように悲しい最後を迎える動物たちをなくすために、私たちはどんな考えをもち、どんな行動をとればよいのでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験に差があるので、「可愛かった」などの感想も共有する。あまり時間をかけずに進む。</li> <li>・悪意のないものの、観光客の自分本意な考えから生まれた餌やりであることを意識させる。</li> <li>・教科書 P78、P79 の写真に注目させ、人と自然が複雑な関係であることを押さえた上で考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分の自然との関わり方や、自然に対する認識は、どんなものであったかと振り返っているか。</li> <li>・観光客、自然を守る団体、地域住民、自然そのものなど、さまざまな視点から、人と自然との関わりについて考えているか。</li> <li>・自然の中で生かされている人間として、美しい、すばらしいだけではない自然との関わり方について、考えを深めているか。</li> </ul>
2	<p>「わたしたちの選択が未来をつくる」</p> <p>— 身近な環境問題を自分事として考える —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日、学校に来るまでに使ったもの・エネルギー」について考える。</li> <li>・架空の中学生の1日の生活場面を読み、環境に関係していると思う行動について考える。</li> <li>・便利さと環境への影響を比べながら考える。</li> </ul> <p>&lt;中心発問&gt; 自分の1日の生活を振り返り、環境に影響を与えていると思う行動はどんなものがありますか。また、そう思う理由はなんですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ならどう選択するかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜそう思ったのか」を言語化できるよう、具体例を示しながら支援する。</li> <li>・生徒の発言を肯定的に受け止め、日常生活と環境とのつながりに気付けるよう板書で整理する。</li> <li>・価値判断を急がせず、多様な捉え方があることを意識させる。</li> <li>・「完璧でなくてよい」ことを伝え、行動化への意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活と環境問題とのつながりに気づき、環境を守ることの意義を理解しているか。</li> <li>・自分の行動や選択が、地域や地球環境、将来世代に影響を与えることを多面的・多角的に考えているか。</li> <li>・持続可能な社会の実現に向けて、自分にできる行動を主体的に考え、実践しようとする態度が見られるか。</li> </ul>